

SMILE😊7月

発行 北高保健室

期末考査も終わり、いよいよ、夏本番となってきました。先日、田畑先生による性教育講演会が行われましたが、自分の知識と比較してどうでしたか？「初めて知る知識が多かった！」という感想が多くありました。今回は、性教育特別号ということで、『性』について特集します。田畑先生の講演を振り返りながら考えてみてくださいね！みなさんにとって、『性』とはどういうイメージでしょうか？『性』という字は「心を生かす」と書きますよね。「命の誕生」「愛し愛されること」、「自分の身を守ること」を伝えるために、性教育が行われています。「自分には関係がないこと」と考えず、自分自身と向き合い、周りの人のことを考えるきっかけとして、今一度、性について考えてみてください。

熊本の現状、どうなっているの？

-最新版-

あれ、このグラフ去年も見た気がするという2・3年生もいるかもしれません。ちょうど1年前に同じようにこのデータを載せています。ですが、今回は最新版としてアップデートしているので、もう一度考えてみてください！

まずは、熊本県及び全国の未成年の実態についてみていきましょう。あなたは『人工妊娠中絶』や『性感染症』は年間を通してどのくらいの数が発生していると思いますか？まずはデータを見ないで考えてみてください。

【熊本県未成年人工妊娠中絶実施数】 出典：県子ども未来課

データ提供：県子ども未来課								【未成年人工妊娠中絶実施率】		
年度	15未満	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	計	年度	本県	全国
H27	9	19	40	52	87	142	349	H27	8.5%	5.5%
H28	2	11	28	35	76	85	237	H28	5.6%	5.0%
H29	7	9	21	36	63	112	248	H29	6.0%	4.8%
H30	3	7	21	37	58	85	211	H30	5.1%	4.7%
R1	2	5	31	29	56	86	209	R1	5.2%	4.5%

H27年の10代の人工妊娠中絶実施率は全国ワースト2位でしたが、H30年は、ワースト13位と改善がみられていました。令和元年度は、中絶実施数・実施率ともに前年度とあまり変わらない数値ですが、全国ワースト8位という結果になっています。このデータを見て、本県の未成年の人工妊娠中絶数が多いことに驚いた人も多いと思います。コロナ禍の中で、未成年者の性に関する相談が後を絶たないという状況があるようです。

また、県内の性感染症罹患患者数は右上のデータを見ればわかるように、少なくはありません。

【熊本県未成年性感染症発生件数】 県健康危機管理課データ

年度	クラミジア	HPV	コンドーム	淋菌	梅毒
H26	130	12	8	41	0
H27	106	5	2	27	0
H28	79	2	7	18	0
H29	75	9	4	22	3
H30	49	6	3	8	8
R1	53	4	7	11	不明

あなたにとって『性』とはどんなイメージですか？

恥ずかしい、よくわからない、興味はあるけど聞きにくい、といった方が多いのかもしれませんが。性は誰にとっても身近なものです。きちんと話す機会は非常に限られています。その一方で、あやふやな性知識のため傷ついたり、誰にも相談できず悩む若者も少なくありません。意図しない妊娠、不妊、性感染症など、日本には性に関する課題が山積みです。『性』についての問題は他人事ではなく、自分にも関係のあることです。将来を考える上で必要となる重要な知識となります。しっかりと考えてみましょう。

あなたにとっての『普通』とは？

LGBTは「**カテゴライズ**」



あなたにとっての『普通』とはどういったことでしょうか？様々なセクシャリティがある中で、今までの普通を拭き去り、SOGIは「**個別化**」。「時代や人によって『普通』が違う、時代にあわせて自らの考え方をアップデートしていく必要がある」ということを念頭に置き、言動や行動にも気を付けてくださいね！



◆もっとわかりやすく知りたいという人へ、ぜひ！

ABEMA オリジナルドラマとして、『17.3 about a sex』という題材で、高校生を主人公に様々な視点から性に関して各回取り上げられています。監修には現役の産婦人科医の先生が携わっておられ、アセクシャル（無性愛）やLGBT、生理や避妊、妊娠、性病、マスターベーション、体型の悩み、セクシャリティ等についてリアルな心情・背景で再現されています。ちなみに、題名でもある17.3は、日本のセックス初体験平均年齢が17.3歳ということから決定されたそうです。彼らが直面する日常生活での差別発言やプレッシャーなども描かれています。考えさせられる内容も多く、高校生向けにつくられた番組のため、興味があれば観てみてくださいね❀



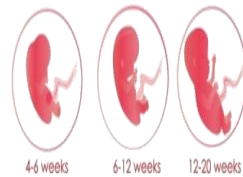
◆性について将来のために知っておくべきこと

田畑先生のお話しにもあったと思いますが、前提として、まずは
①産み、育てられる年齢になるまで性交しない
②もし性交する場合は、正しく、しっかり避妊をする
上記2点を念頭においてください！

HAPPY
LOVE GUIDE



HUMAN EMBRYO EVOLUTION



5. 生理を上手にコントロールしよう！

講演の中でもありましたが、女子の悩み第1位である生理。ピルを服用することで、試験や試合・発表会など大事な日や旅行の際などに生理周期をずらすなどコントロールすることが可能です。また、「生理や生理痛が軽くなった」「生理前の症状（PMS）も軽減された」と生理の悩みの解消にもつながります。今のピルに心配な副作用はほぼありません。生理や避妊で悩んだら婦人科の先生に相談してみましょう。

講演の中でもあったように、鎮痛薬を服用することは決して悪いことではありません。むしろ、痛みを我慢すると身体に負担がかかることになるため、痛みがじんわりきたら服用して、生理痛をうまくコントロールしてください。

6. 妊娠中絶が多いようですが、何週まで可能なのですか？

「出産」という選択が難しい時、人工的に中断する「中絶」という選択があります。手術は妊娠12週未満で10万円、以降22週未満では30万円ほどかかり、どんな理由があろうとも法律で22週以降の中絶行為は認められていません。中絶を選択しないといけな時期は、そうならないためにも冒頭で言ったように、性行為をしないであったり、避妊をするなど自分なりに考えて行動しましょう。

7. メディアの情報通りに接したら、相手は喜びませんか？

もしかして、アダルトビデオやHな雑誌の情報を信じていませんか？メディアは「売れる」ために過激な表現や、誤った情報を盛り込んでいます。アダルトビデオにも台本があり、それに沿って撮影をしていると言われていいます。「こうすれば彼氏・彼女は喜ぶ」と信じ込まず、どんなふれあいがか2人で話し合ってみましょう。『性的同意』がない行為は、付き合っていたとしても、それは『性暴力』にあたる可能性があります。少しのズレで『性暴力』になる危険性もあるので、十分気を付けて相手を思いやることを忘れないでください。

講演の中でもでてきた、『身体的暴力』『精神的暴力』『性的暴力』『デジタル暴力』『金銭的暴力』。自分の行動に当てはまることはないかチェックしてみるのもいいかもしれません！

◆保健室から

「性」についての問題は他人事ではなく、自分にも関係のあることです。意図しない妊娠や性感染症…これらの問題から『自分や相手を守る』ためにどうしなければならいでしょう。将来を考える上で重要な問題です。性教育講演会の内容を振り返り、しっかりと考え、家庭でも話し合ってみましょう。

みなさんの講演会後の感想用紙にすべて目を通しました。「将来のことを考えて、HPVワクチンを接種したい」と書いている人は男女ともに多かったです。学ぶことを後回しにせず、いずれ向き合わなければいけない「性」について今のうちから考えていきましょう！

1. いつでも『危険日』！！

時々、「安全日っていつなんですか」という質問をされることがあります。女性の排卵日はズレやすいうえ、精子の寿命も3～5日ほどあるため、実は毎日が危険日なのです。膣外射精や行為の途中でコンドームをつけることは確実な避妊ではありません。講演でもあったように、射精前から精子が少しずつ出ているからです。安全日はないということを覚えておきましょう。

2. どうしたら避妊ができるのですか？

絶対妊娠しないという方法はありません。講演の中では、確率が高い避妊方法として、『コンドーム+ピル』と言われていました。コンドームには、病気を防ぎ、避妊の役割があります。しかし正しく装着しないと意味がありません。そのため、講演の中で先生がおっしゃられていた、「コンドームの達人」岩室紳也先生の動画を気になる人は見て、正しい知識として記憶しておきましょう。ピルには避妊効果の他に様々な効果がありますが、性感染症を防ぐ効果はありませんので、そこは覚えておいてください。

3. もし、避妊ができなかったらどうすればいいですか？

避妊をしたがコンドームがやぶれてしまった、レイプされたなどの、緊急時に妊娠を防ぐ最終手段が、緊急避妊薬（アフターピル）です。性行為から72時間以内にこの薬を飲むと高い確率で妊娠を防ぐことができます。薬を処方してもらえるのは、産婦人科・婦人科になります。講演の中でもあったように、あくまでも『最終手段』です。

4. 性器がかゆい！痛い！変な分泌物がでている！どうすればいいですか？

上記症状があれば、性行為でうつる病気・性感染症の可能性があります。迷わずすぐに病院へ行きましょう！症状がなくても重い病気に発展してしまったり、将来妊娠ができなくなったり、赤ちゃんへ感染することもあります。そうならないためにも、まずは性行為の際はコンドームを装着することで予防し、保健所・もしくは婦人科・泌尿器科で検査を受けることが重要となります。

◆性教育講演会の感想の一部

・これから色々な事を体験していく中で、正しい知識と行動を選択する事が出来るように、冷静な判断をしていきたいと思う（男子生徒）
・断る勇気を大切にしてこれから相手と向き合いたい。自分と向き合ってくれて、大切にしてくれる人を大事にしたいと思いました。
・知らないことが一番怖いことなので正しい知識を習得したい（女子生徒）